

平成28年9月23日

文化庁メディア芸術祭新潟展「記憶と記録のモノ漣り」の開催

文化庁では、新潟市においてメディアアート、映像、ゲーム、ウェブ、アニメーション、マンガ等のメディア芸術作品を総合的に展示・上映する展覧会「記憶と記録のモノ漣り」を開催いたしますので、お知らせいたします。

1. 概要

文化庁では、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバル「文化庁メディア芸術祭」を実施しています。

この受賞作品を中心に、優れたメディア芸術作品の鑑賞機会を提供するため、平成14年度より国内の様々な都市において展覧会を開催しています。このたび、文化庁メディア芸術祭新潟展として展覧会「記憶と記録のモノ漣り」を別紙のとおり開催いたします。

2. 会期等

会期：平成28年10月10日（月・祝）～10月30日（日）

会場：COSMIX ビル ほか

入場料：無料

3. 主催等

主催：文化庁

共催：新潟市、新潟大学

運営：文化庁メディア芸術祭新潟展事務局（株式会社 新宣）

4. 問合せ先

文化庁メディア芸術祭新潟展事務局（株式会社新宣）

電話：025-243-7040（土日祝を除く9時～18時）

Mail：media_arts_niigata@shinsen.biz

<担当>文化庁文化部芸術文化課

支援推進室メディア芸術交流係

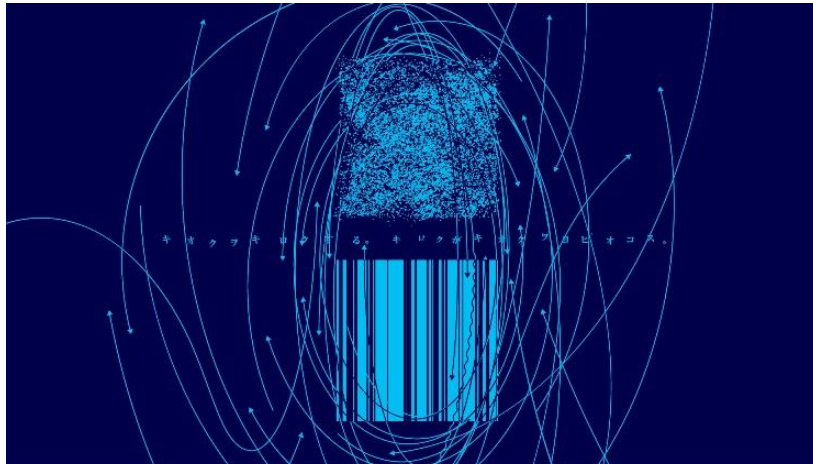
支援推進室長 柏田 昭生（内線 2858）

支援推進室長補佐 鈴木 康彦（内線 2062）

メディア芸術交流係長 中臺 正明（内線 2895）

電話：03-5253-4111（代表）

文化庁メディア芸術祭新潟展「記憶と記録のモノ渇り」 開催の御案内



文化庁メディア芸術祭新潟展 記憶と記録のモノ渇り

アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガ。 「記憶」と「記録」が響き合う、21日間の「モノ渇り」。

文化庁メディア芸術祭新潟展では「記憶と記録のモノ渇り」をテーマに、「文化庁メディア芸術祭」の受賞作品を中心に紹介します。

芸術作品は、作家の記憶が込められていたり、作家による記録であったりします。そしてそれは同時に、多くの人々が共有している記憶や記録でもあります。記憶や記録は互いに影響しながら、物語として現在まで紡がれてきました。

また、「新潟」という地名にもある通り、新潟には日本一の長さを誇る信濃川など豊かな自然により、多くの「渇」が存在し、様々な生活や文化が育まれてきました。

本展覧会では、「渇」で育まれた文化のように多様な表現方法をもつメディア芸術作品を新潟市内各会場で紹介します。それらの記憶や記録とともに新たな「モノ渇り」が紡がれ、次の時代を予感させる機会となるでしょう。

文化庁メディア芸術祭とは

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。平成9年度(1997年)の開催以来、高い芸術性や創造性を持つ優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の展示・上映や、シンポジウムなどの関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。また、受賞作品を中心に、優れたメディア芸術作品を総合的に紹介する展覧会を国内外で開催しています。



昨年度[第19回]文化庁メディア芸術祭 受賞作品展の様子
(国立新美術館/東京・六本木)

中心市街地である「万代地区」と「古町地区」の7会場で開催。

文化庁メディア芸術祭新潟展は、新潟市の背骨となる「新潟駅から万代、古町、そして日本海」に続く延伸上にある7会場で、過去の文化庁メディア芸術祭受賞作品を中心とした作品の展示や上映、イベントを開催します。

また同時期には、多くのマンガ家を輩出している新潟のアニメ・マンガ文化を広くアピールする「がたふえす(にいがたアニメ・マンガフェスティバル)」や企業等のショーウィンドウにアート作品を展示する「NIIGATAオフィス・アート・ストリート」、そして今年で48回目を数える「新潟市美術展」など、文化庁メディア芸術祭新潟展を中心に、地域に根付いた様々な芸術を回遊しながらお楽しみいただけます。



開催概要

〔会 期〕 平成28年10月10日(月・祝)～10月30日(日)

〔入場料〕 無 料

〔会 場〕 メイン会場 COZMIX ビル(上図A), 新潟市旧齋藤家別邸(上図B),
旧市長公舎 安吾 風の館(上図C), 新潟市マンガの家(上図D)
サテライト会場 フルマチ・アートスタジオ(上図E),
国際映像メディア専門学校 実習棟(上図F), NEXT21 アトリウム(上図G)

〔主 催〕 文化庁

〔共 催〕 新潟市, 新潟大学

〔後 援〕 新潟市教育委員会, 公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団, 公益財団法人 新潟観光コンベンション協会, NHK新潟放送局, BSN新潟放送, N S T, TeNYテレビ新潟, UX新潟テレビ21, 新潟日報社, 朝日新聞新潟総局, 毎日新聞新潟支局, 読売新聞新潟支局, 産経新聞新潟支局, 日本経済新聞社新潟支局, エフエムラジオ新潟, FM PORT79.0, FM KENTO, ラジオチャット・エフエム新津

〔協 力〕 国際映像メディア専門学校, 新潟トヨタ自動車株式会社

〔事務局〕 文化庁メディア芸術祭新潟展事務局(株式会社 新宣)

〒950-0078 新潟市中央区万代島5-1万代島ビル16F

TEL 025-243-7040(土日祝を除く9時～18時)

Email : media_arts_niigata@shinsen.biz

〔公式サイト〕 www.mediaarts-niigata.com

展示・上映作品 (予定)

メイン会場 COZMIX ビル

開館時間: 10:00~17:00
会期中無休

新潟駅から一番近い会場であり、文化庁メディア芸術祭新潟展の入口的な存在として、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの各部門からの作品展示を総合的にを行います。

〔みどころ〕

Perfumeライブ「SXSW 2015」

Perfume/MIKIKO/中田 ヤスタカ/真鍋 大度
/花井 裕也/石橋 素/堀井 哲史/菅野 薫

第19回 エンターテインメント部門審査委員会推薦作品
〔展示形態〕 パネル展示, モニタ上映



©Amuse, Inc.+ UNIVERSAL MUSIC LLC + Rhizomatiks co.,Ltd + DENTSU INC.

ライブ会場の観客と、会場での体験に比べ劣る点が多い生中継視聴者の両方に楽しんでもらえる演出を目指し制作された作品。3Dスキャン, モーションキャプチャ, プロジェクションマッピング, CG合成, 3Dリコンストラクションなどの緻密なライブシステムと中継技術を組み合わせ、ライブ映像とCGの仮想空間をシームレスに行き来できるシステムを開発している。

はちみつ色のユン

ユング/ローラン・ボアロー

第17回 アニメーション部門大賞

〔展示形態〕 パネル展示, モニタ上映



©Mosaïque Films - Artémis Productions - Panda Média - Nadasdy Film - France 3 Cinéma - 2012

朝鮮戦争後の韓国では、多くの子どもが養子として祖国を後にした。その中の一人「ユン」は、ベルギーのある一家に“家族”として迎えられた。肌の色が異なる両親と4人の兄妹とともに生活を送る中で、フランス語を覚え、韓国語や孤児院での生活を忘れることができた「ユン」。そんな時にもう一人、韓国からの養女がやってきて“家族”に加わった。彼女を見て、「ユン」は自分が何者なのかを意識し始める。韓国系ベルギー人のユン監督が自身の半生を描いたマンガをもとに、ドキュメンタリー映画監督ローラン・ボアローと共同監督したアニメーション。現代のソウル、そして1970年当時のユン監督が写された8ミリフィルムや記録映像による実写と、手描きやCGによる3Dアニメーションといった多彩な手法でシーンを描き分け、アニメーション表現の可能性を切り拓く。肌の色が違っても、血のつながりがなくても、愛に満ちている“家族”のあり方を本作は物語っている。

メイン会場 新潟市旧齋藤家別邸

開館時間: 9:30～17:00

休館日: 11日(火), 17日(月), 24日(月)

豪商齋藤家の四代齋藤喜十郎(庫吉1864～1941)が、大正7年(1918)に別荘として建造しました。砂丘地形を利用した回遊式の庭園と、近代和風建築の秀作といわれる開放的なこの建物では、アート部門のこれまでの受賞作品と県内招待作家の作品を展示します。

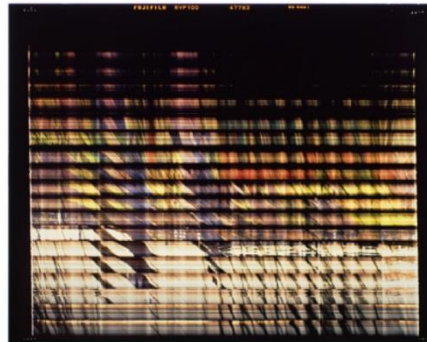
〔みどころ〕

これは映画ではないらしい

五島一浩

第18回 アート部門優秀賞

〔展示形態〕 インスタレーション



©2014 Kazuhiro GOSHIMA
All Rights Reserved.

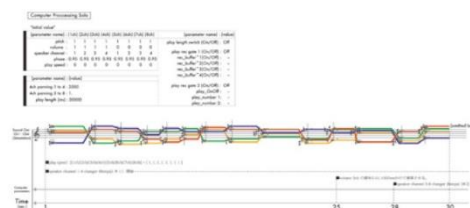
従来の映画や動画を成立させる「コマ(静止画)」の連続とは異なり、「コマの無い動画カメラ／映写機」によって「動く画像」を生み出す作品。本作ではこれまでの映画／動画の基本概念を問い直す、かつてない画期的なシステムが考案・実証されている。本作のカメラ兼映写機は、二眼レフカメラの対物レンズと、光ファイバーの束、ファイバーを通った光を露光するフィルム、フィルムフォルダーをスライドさせる手動ハンドルなどが内蔵された箱型の構造物である。撮影時、格子状に植え付けられた324本の光ファイバーは、324画素のドットの役割を担う。ハンドルを回して内部のフィルムフォルダーをスライドさせることで、ファイバーを通った光がフィルムに露光される仕組みとなっている。このフィルムを撮影時と同様にスライドさせることで、光の線として記録された動画を再生することができる。

《 patrinia yellow 》 for Clarinet and Computer

福島 諭

第18回 アート部門優秀賞

〔展示形態〕 インスタレーション



©2014 FUKUSHIMA Satoshi All Rights Reserved.

本作は、女郎花(オミナエシ Patrinia Yellow 学名: Patrinia scabiosifolia)という植物の一年の周期を表現した、クラリネットとコンピュータによる楽曲とそのライブパフォーマンスである。2013年に韓国で初演された本作は、クラリネット演奏と、その一部をリアルタイムで録音した音、更にその音源をコンピュータで処理した音で構成される。11分の楽曲は三つのパートに分かれており、第1部と第2部はクラリネットとコンピュータの共演、それに挟まれる中間部はコンピュータのみによる独奏となっている。本作の作曲法では、題材となった植物がもつ生命の循環／伸縮／リズムをさまざまなスケールで表現すべく、楽器演奏とコンピュータによる音の組織法、パラメータが緻密に設定されている。本作は、リアルタイムの演奏と、その録音データをデジタル処理して楽曲を制作する「リアルタイム・サンプリング」という手法を植物の生態的な周期になぞらえ、現代音楽における独自の音楽論を探究する試みだといえる。

メイン会場

旧市長公舎 安吾 風の館

開館時間: 9:00~17:00

休館日: 11日(火), 17日(月), 24日(月)

新潟市が平成17年2月に、坂口家から同市出身の作家 坂口安吾の遺品・所蔵資料の寄贈を受け、坂口安吾の生まれ育った中央区西大畑町にある旧市長公舎を活用し、平成21年7月から一般公開している施設です。ここでは、新潟出身の漫画家 近藤ようこの作品を展示します。

〔みどころ〕

五色の舟

近藤 ようこ／原作：津原 泰水

第18回 マンガ部門大賞

〔展示形態〕 パネル展示, 原画展示



©Youko Kondo/Yasumi Tsuchida 2014
©KADOKAWA

津原泰水の傑作幻想譚(たん)が、近藤ようこの手によって儚くも鮮烈にマンガ化された作品。先の見えない戦時下、太平洋戦争末期を時代背景に、見世物小屋の一座として糊口をしのぐ異形の者たちの哀切な運命が描かれる。主人公は、脱疽(だっそ)で足を失った元花形旅役者・雪之助(ゆきのすけ)、一寸法師だが怪力の昭助(しょうすけ)、結合双生児だったが手術を受け一人蛇女として生きる桜(さくら)、膝関節の障害を逆に牛女となった清子(きよこ)、そして両腕のない少年・和郎(かずお)の5人。彼らは古い舟を住处(すみか)として、まるで家族のように暮らしていた。ある日、未来を言い当てるという怪物・くだんの噂を知った雪之助は、一座の仲間になろうと家族総出で岩国に向かうことに。くだんは既に軍の手中にあったが、目を合わせた和郎は、その日から舟で海原を漂い、離合集散を繰り返す一座の夢を見るようになる。これはくだんの仕業に違いないと確信した和郎だったが―。小説での発表も困難と目された原作に、近藤ようこが挑んだ奇跡のマンガ化作品。

『月刊コミックビーム』(KADOKAWA)連載開始:2013年8月号 連載終了:2014年3月号

戦争と一人の女

近藤 ようこ／原作：坂口 安吾

第17回 マンガ部門審査委員会推薦作品

〔展示形態〕 パネル展示, 原画展示

6年がかりで描き下ろされた意欲作。敗戦の気配から日本に絶望する虚無的な小説家と、過去に売春宿、飲み屋で働いていた不感症の女。戦争に生かされた二人の刹那的な世界を描いた坂口安吾の異色作、GHQ検閲前無削除版「戦争と一人の女」「続戦争と一人の女」「私は海をだきしめていたい」をひとつの話に構成しマンガで表現した作品。



©Youko Kondo / Seirinkogei-sha

メイン会場 新潟市マンガの家

開館時間: 11:00~19:00

休館日: 12日(水), 19日(水), 26日(水)

新潟市マンガの家は、新潟ゆかりのギャグマンガ家 赤塚不二夫、魔夜峰央、新沢基栄、えんどコイチの代表作の紹介に加え、マンガの創作体験ができる施設です。ここでは田亀源五郎の『弟の夫』の原画を展示するほか、マンガライブラリーを設置します。

〔みどころ〕

弟の夫

田亀源五郎

第19回 マンガ部門優秀賞

〔展示形態〕 パネル展示, 原画展示

同性婚をテーマに、一般社会のなかでのゲイを描いた作品。弥一(やいち)と夏菜(かな), 父娘2人暮らしの家に、マイクと名乗る男がカナダからやって来た。彼は、弥一の双子の弟・涼二(りょうじ)の結婚相手だった。涼二はカナダでマイクと同性婚をし、その後亡くなったのだった。「パパに双子の弟がいたの?」「男同士で結婚ってできるの?」と幼い夏菜は、突如現われたカナダ人の“おじさん”マイクに大興奮、たちまち意気投合し仲良しになる。一方の弥一は、しばらく日本に滞在することになったマイクと一緒に暮らすうちに、自身のなかにあった偏見に気づいていく。そして、成長とともに自然と距離ができてしまった亡き弟・涼二への想いを深めていくことになる。海外でも高い評価を得ている作者による初の一般誌連載作品である。『月刊アクション』(双葉社) 連載開始: 2014年11月号一連載中



© TAGAME Gengoroh / Futabasha

マンガライブラリー

マンガ部門

作品	作家	文化庁メディア芸術祭受賞歴など
あの日からのマンガ	しりあがり 寿	第15回 優秀賞
嘘	バコ・ロカ 訳: 小野 耕世/高木 菜々	第15回 優秀賞
ファン・ホーム ―ある家族の悲喜劇―	アリソン・ベカダル 訳: 椎名 ゆかり	第15回 優秀賞
北城百画帖	AKRU	第15回 審査委員会推薦作品
はたらけ、ケンタウロス!	えすとえむ	第15回 審査委員会推薦作品
ムチャチーある少年の革命	エマニエル・ルバージュ 訳: 大西 愛子	第16回 優秀賞
凍りの掌 シベリア抑留記	おざわ ゆき	第16回 新人賞
日本人の知らない日本語	橋成・マンガ: 蛇蔵 原案: 海野 風子	第16回 審査委員会推薦作品
鶏のプラム煮	マルジャン・サトラビ 訳: 渋谷 豊	第16回 審査委員会推薦作品
僕らの漫画	「僕らの漫画」制作委員会	第16回 審査委員会推薦作品
昭和元祿落語心中	雲田 はるこ	第17回 優秀賞
ウォーキング・デッド	ロバート・カークマン 作画: トニー・ムーア/チャーリー・アドラード 訳: 風間 賢二	第17回 審査委員会推薦作品
すべてがちよとずつ優しい世界	西島 大介	第17回 審査委員会推薦作品
第七女子会彷徨	つばな	第17回 審査委員会推薦作品
ラ・フランス	フランソワ・スキテン 訳: 古永 真一	第17回 審査委員会推薦作品
Ngurrara	Tyson MOWARIN/Stuart CAMPBELL	第17回 審査委員会推薦作品
チャイニーズ・ライフ	李 昆武/フリック・オティエ 訳: 野嶋 剛	第18回 優秀賞
愛を喰らえ!!	ルネサンス吉田	第18回 新人賞
カニコレボリューション	アルチュール・ド・バンス 訳: 原 正人	第18回 審査委員会推薦作品
かわいい闇	ファビアン・ヴェルマン/マリ・ボムビュ/クラスコエット 訳: 原 正人	第18回 審査委員会推薦作品
かくかくしかじか	東村 アキコ	第19回 大賞
弟の夫	田亀 源五郎	第19回 優秀賞

※作品やスケジュールは予定のものです。変更となる場合がありますので予めご了承ください。

サテライト会場 フルマチ・アートスタジオ

開館時間: 9:00~17:00
会期中無休

フルマチ・アートスタジオは、古町通の空き店舗を活用しアート活動を通じてまちの活性化につなげるアート・コミュニティスペースです。ここでは地元招待作家による映像展示を行います。

シネリテラシー ～映像をみる・つくる・発信する～

柳沼宏寿

地元招待作家

〔展示形態〕 映像展示

小学生から高校生を対象に映像メディア表現の面白さを知ってもらうための企画。会場に上映ブースを複数箇所設置し、過去7回の「シネリテラシーフェスタ」で上映された作品からいくつかを選出して上映します。また、来場者が映像メディア表現を気軽に楽しめる体験コーナーも設置します。さらに、会期中にはデジタルカメラやiPadなどの映像メディアを使った、表現の面白さや可能性を体験的に学ぶワークショップも開催され、コマ撮りや逆再生などのしかけで映像を制作したり、ミニ映画祭を演出したりするなど、楽しみながら学ぶことができます。

サテライト会場

国際映像メディア専門学校 実習棟

開館時間: 10:00~17:00 ※10月15日(土)~30日(日)の土日のみ。ただし22日(土)は15:30~17:30

映画や映像の制作技術を学び、未来のクリエイターを目指す学生が集まるこの専門学校を会場に、会期中の土日に映像作品をスクリーンで上映します。

アニメーション部門

作品	作家	文化庁メディア芸術祭受賞歴
ホリデイ	ひらの りょう	第15回 審査委員会推薦作品
BONNIE	岡本 将徳	第15回 審査委員会推薦作品
HARBOR TALE	伊藤 有杏	第16回 審査委員会推薦作品
KiyaKiya	近藤 聡乃	第16回 審査委員会推薦作品
Love Games	JOUNG Yumi	第16回 審査委員会推薦作品
はちみつ色のユン	ユング / ローラン・ポアロー	第17回 大賞
Airy Me	久野 遥子	第17回 新人賞
かまくら	水尻 自子	第17回 審査委員会推薦作品
Ici, la et partout	冠木 佐和子	第17回 審査委員会推薦作品
The Wound	Anna BUDANOVA	第18回 大賞
コップの中の子牛	朱 彦潼	第18回 新人賞
Man on the chair	JEONG Dahee	第18回 新人賞
境界線	中田 彩郁	第18回 審査委員会推薦作品
Blue Eyes -in HARBOR TALE -	伊藤 有杏	第18回 審査委員会推薦作品
ズドラーストヴィチェ!	幸 洋子	第19回 審査委員会推薦作品
The Poem	CHEN Xi	第19回 審査委員会推薦作品
その家の名前	坂上 直	地元招待作家
かたすみの鱗	石谷 恵	招待作家
だるころ	賢者	招待作家
ひとりぼっちのヒーロー	若井 麻奈美	招待作家

※メイン会場であるCOZMIX ビルでも全ての作品の本編またはダイジェスト版を上映します。

※作品やスケジュールは予定のものです。変更となる場合がありますので予めご了承ください。

イベント (予定)

あいうえお作文RAPワークショップ

“へいわをねがう”の7文字で、あなたの思う平和についてあいうえお作文をつくります。できた作文はみんなでラップ、みんなの平和をつなげて歌います。未経験・楽器の持ち込みも大歓迎です。

- 〔日時〕 10月10日(月・祝)13:30～15:30
〔会場〕 COZMIX ビル 2F 会議室
〔講師〕 くろやなぎてっぺい(NOdDIN・映像作家) 他
〔進行〕 20名様(当日先着, 参加無料)

シネリテラシー ～映像をみる・つくる・発信する～

コマ撮りや逆再生などのしかけによる映像制作やミニ映画祭の演出体験を通して、映像メディアがもつ表現の面白さや可能性を体験できます。

- 〔日時〕 10月15日(土) 一回目 10:00～12:00／二回目 13:30～15:30
〔会場〕 NEXT21 アトリウム
〔講師〕 柳沼宏寿(新潟大学教育学部教授)
〔進行〕 丹治嘉彦(新潟大学教育学部教授)
〔定員〕 一回目・二回目 各10名様(当日先着, 参加無料)

マンガを描くこと ～『弟の夫』を中心に～

ゲイアートの第一人者として世界的に評価されている田亀源五郎。トークショーとマンガ制作ワークショップを通じて作家の創作の一端に触れます。

- 〔日時〕 10月15日(土)13:00～15:30
〔会場〕 新潟市マンガの家
〔講師〕 田亀源五郎(マンガ家)
〔進行〕 石田美紀(新潟大学人文学部准教授), 伊丸岡未来(新潟市文化政策課学芸員)
〔定員〕 30名様(当日先着, 参加無料)

Harbor Tale in 新潟 ～伊藤有壱監督クレイアニメワークショップ開催～

NHK Eテレ「プチプチ・アニメ」で放送されている『ニャッキ!』の監督として知られる伊藤有壱によるワークショップを開催。小麦粘土を使用したクレイアニメを制作します。

- 〔日時〕 10月16日(日)13:00～15:00
〔会場〕 COZMIX ビル
〔講師〕 伊藤有壱(アニメーション作家)
〔進行〕 坂上直(映像作家)
〔定員〕 15名様(当日先着, 入場無料) ※汚れてもいい服装でご参加ください。

アート部門 映像作品上映会+トークショー ～記憶へのまなざし～

『BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW』の特別セレクション上映と、遠藤龍『INVISIBLE』の上映会。上映後に参加作家によるトークを行います。

〔日時〕 10月22日(土)15:30～17:30 ※開場15:00

〔会場〕 国際映像メディア 専門学校 実習棟

〔トークショー出演者〕

池田泰教(映像作家), 遠藤龍(映像作家), 大木裕之(映像作家),
岡澤理奈(SOLCORD), 鈴木光(映像作家), タカシトシコ(映像作家),
前田真二郎(SOLCORD/映像作家)

〔進行〕 福島諭(作曲家)

〔定員〕 200名様(当日先着, 入場無料)

ユング監督トーク ～ベルギーと韓国の間で～

マンガや映画として国際的に注目を浴びた『はちみつ色のユン』の作家ユングが, 韓国からベルギーへ国際養子入りした自らの経験に基づき, 作品創作を続けることについて語ります。

〔日時〕 10月22日(土)13:00～14:40

〔会場〕 COZMIX ビル

〔講師〕 ユング(マンガ作家, 監督)

〔進行〕 石田美紀(新潟大学人文学部准教授), キム・ジュニアン(新潟大学人文学部准教授)

〔定員〕 30名様(当日先着, 参加無料)

対談 坂上直×北小路隆志

旧新津市出身の映像作家・坂上直と, 映画評論家・北小路隆志の対談。代表作である『その家の名前』の制作過程や, 新潟あるいは地方で作品制作を行うことの可能性について考察します。

〔日時〕 10月29日(土)13:00～14:00

〔会場〕 COZMIX ビル

〔出演〕 坂上直(映像作家), 北小路隆志(映画評論家)

〔定員〕 30名様(当日先着, 参加無料)

対談 近藤ようこ×千野帽子「マンガと文学ーふたつの想像力」

坂口安吾, 津原泰水, 折口信夫, 夏目漱石等の多くの文学作品をマンガ化し, 独自の作品世界を作り上げてきた近藤ようこ。近藤の創作に, 文筆家の千野帽子が迫ります。

〔日時〕 10月29日(土)14:00～15:00

〔会場〕 旧市長公舎 安吾 風の館

〔講師〕 近藤ようこ(マンガ家), 千野帽子(文筆家)

〔進行〕 石田美紀(新潟大学人文学部准教授)

〔定員〕 28名様(当日先着, 入場無料)

出品作品一覧 (予定)

アート部門

作品	作家	文化庁メディア芸術祭受賞歴など	展示会場
BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW	SOL CHORD(前田 真二郎/岡澤 理奈)	第16回 優秀賞	COZMIX ビル
これは映画ではないらしい	五島 一浩	第18回 優秀賞	新潟市旧斎藤家別邸
《 patrinia yellow 》 for Clarinet and Computer CINEMA ～カメラオブスクラの中で文字を書く～	福島 諭	第18回 優秀賞	新潟市旧斎藤家別邸
I N V I S I B L E	木村 悟之	第18回 審査委員会推薦作品	新潟市旧斎藤家別邸
MORI 2016	遠藤 龍	地元招待作家	新潟市旧斎藤家別邸
	高橋 悠+高橋 香苗	地元招待作家	新潟市旧斎藤家別邸

エンターテインメント部門

作品	作家	文化庁メディア芸術祭受賞歴など	展示会場
Perfumeライブ「SXSW 2015」	Perfume/MIKIKO/中田 ヤスカ/真鍋 大度/ 花井 裕也/石橋 素/堀井 哲史/菅野 薫	第19回 審査委員会推薦作品	COZMIX ビル
あいうえお作文RAPプロジェクト	くろやなぎ てっぺい (NOddIN)	第19回 審査委員会推薦作品	COZMIX ビル
2.5次元マスク	くわがた/岩淵 真紀/宮崎 まり	第19回 審査委員会推薦作品	COZMIX ビル
シネリテラシー ～映像をみる・つくる・発信する～	柳沼 宏寿	地元招待作家	フルマチ・アートスタジオ

アニメーション部門

作品	作家	文化庁メディア芸術祭受賞歴など	展示会場
ホリデイ	ひらの りょう	第15回 審査委員会推薦作品	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
BONNIE	岡本 将徳	第15回 審査委員会推薦作品	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
HARBOR TALE	伊藤 有希	第16回 審査委員会推薦作品	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
KiyaKiya	近藤 聡乃	第16回 審査委員会推薦作品	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
Love Games	JOUNG Yumi	第16回 審査委員会推薦作品	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
はちみつ色のユン	ユング /ローラン・ポアロー	第17回 大賞	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
Airy Me	久野 遥子	第17回 新人賞	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
かまくら	水尻 自子	第17回 審査委員会推薦作品	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
Ici, la et partout	冠木 佐和子	第17回 審査委員会推薦作品	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
The Wound	Anna BUDANOVA	第18回 大賞	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
コップの中の子牛	朱 彦潼	第18回 新人賞	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
Man on the chair	JEONG Dahee	第18回 新人賞	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
境界線	中田 彩郁	第18回 審査委員会推薦作品	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
Blue Eyes -in HARBOR TALE -	伊藤 有希	第18回 審査委員会推薦作品	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(本編)
ズドラーストヴィチェ!	幸 洋子	第19回 審査委員会推薦作品	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
The Poem	CHEN Xi	第19回 審査委員会推薦作品	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
その家の名前	坂上 直	地元招待作家	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(本編)
かたすみの鱗	石谷 恵	招待作家	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
だるころ	賢者	招待作家	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)
ひとりぼっちのヒーロー	若井 麻奈美	招待作家	国際映像メディア専門学校 実習棟(本編) COZMIX ビル(ダイジェスト)

※作品やスケジュールは予定のものです。変更となる場合がありますので予めご了承ください。

マンガ部門

作品	作家	文化庁メディア芸術祭受賞歴など	展示会場
あの日からのマンガ	しりあがり 寿	第15回 優秀賞	新潟市マンガの家(ライブラリー)
皺	バコ・ロカ 訳：小野 耕世/高木 菜々	第15回 優秀賞	新潟市マンガの家(ライブラリー)
ファン・ホーム ある家族の悲喜劇	アリソン・ベクダル 訳：椎名 ゆかり	第15回 優秀賞	新潟市マンガの家(ライブラリー)
北城百画帖	AKRU	第15回 審査委員会推薦作品	新潟市マンガの家(ライブラリー)
はたらけ、ケンタウロス！	えすとえむ	第15回 審査委員会推薦作品	新潟市マンガの家(ライブラリー)
ムチャチャある少年の革命	エマニエル・ルバージュ 訳：大西 愛子	第16回 優秀賞	新潟市マンガの家(ライブラリー)
凍りの掌 シベリア抑留記	おさむ ゆき	第16回 新人賞	新潟市マンガの家(ライブラリー)
日本人の知らない日本語	構成・マンガ：蛇蔵 原案：海野 凧子	第16回 審査委員会推薦作品	新潟市マンガの家(ライブラリー)
鶏のプラム煮	マルジャン・サトラビ 訳：渋谷 豊	第16回 審査委員会推薦作品	新潟市マンガの家(ライブラリー)
僕らの漫画	「僕らの漫画」制作委員会	第16回 審査委員会推薦作品	新潟市マンガの家(ライブラリー)
昭和元禄落語心中	雲田 はるこ	第17回 優秀賞	新潟市マンガの家(ライブラリー)
ウォーキング・デッド	ロバート・カークマン 作画：トニー・ムーア/チャーリー・アドラード 訳：風間 賢二	第17回 審査委員会推薦作品	新潟市マンガの家(ライブラリー)
すべてがちよとずつ優しい世界	西島 大介	第17回 審査委員会推薦作品	新潟市マンガの家(ライブラリー)
戦争と一人の女	近藤 ようこ 原作：坂口 安吾	第17回 審査委員会推薦作品	旧市長公舎 安吾 風の館
第七女子会彷徨	つばな	第17回 審査委員会推薦作品	新潟市マンガの家(ライブラリー)
ラ・ドゥース	フランソワ・スクイテン 訳：古永 真一	第17回 審査委員会推薦作品	新潟市マンガの家(ライブラリー)
Ngurrara	Tyson MOWARIN/Stuart CAMPBELL	第17回 審査委員会推薦作品	新潟市マンガの家(ライブラリー)
五色の舟	近藤 ようこ 原作：津原 泰水	第18回 大賞	旧市長公舎 安吾 風の館
チャイニーズ・ライフ	李 昆武/フィリップ・オティエ 訳：野嶋 剛	第18回 優秀賞	新潟市マンガの家(ライブラリー)
愛を喰らえ！！	ルネッサンス吉田	第18回 新人賞	新潟市マンガの家(ライブラリー)
カニカニレボリューション	アルチュール・ド・パンス 訳：原 正人	第18回 審査委員会推薦作品	新潟市マンガの家(ライブラリー)
かわいいい間	ファビアン・ヴェルマン/マリー・ボムビュイ/ケラスコエット 訳：原 正人	第18回 審査委員会推薦作品	新潟市マンガの家(ライブラリー)
かくかくしかじか	東村 アキコ	第19回 大賞	新潟市マンガの家(ライブラリー)
弟の夫	田亀 源五郎	第19回 優秀賞	新潟市マンガの家
はちみつ色のユン	ユング 訳：鶴野 孝紀	第19回 審査委員会推薦作品	COZMIX ビル

オープニングセレモニーのご案内(予定)

〔日時〕 2016年10月10日(月・祝) 9:40より

〔場所〕 COZMIX ビル(新潟市中央区万代2丁目1-1)

〔内容〕 主催者挨拶, テープカット

《登壇者》(予定)

文化庁文化政策課長 木村 直樹

新潟市長 篠田 昭

新潟大学 理事 高橋 均

新潟トヨタ自動車株式会社(会場協力)

代表取締役 等々力 好泰
(敬称略)

※この他、一部の出展作家の当日出席も予定しております。取材を希望する場合は下記事務局までお問い合わせください。

《問合せ先》

文化庁メディア芸術祭新潟展事務局(株式会社 新宣)

〒950-0078 新潟市中央区万代島5-1万代島ビル16F

TEL 025-243-7040(土日を除く9時～18時)

Email : media_arts_niigata@shinsen.biz